

特集

照葉樹林

～失われゆく日本の原風景～

サイエンスインタビュー 折り曲げて貼れる画期的な「ペロブスカイト太陽電池」の開発をリード!

科学冒険隊 歯車を使ったおもちゃを作ろう!

生き物たちの不思議な関係 藻類の葉緑体を盗んで光合成!? ウミウシの1種 チドリミドリガイ

かはくレポート 巨大海流「黒潮」の役割を理解する



「milsil(ミルシル)」について
「milsil(ミルシル)」の「mil(ミル)」は「見てみる」「聞いてみる」「やってみる」の「ミル」。そのような「ミル」から、新たな、そして豊かな「sil(シル=知る)」が得られるでしょう。この雑誌とともに、皆様楽しい「ミルシル」体験をされることを願っています。

C O N T E N T S

- 3 【特集】**照葉樹林**
～失われゆく日本の原風景～
[全体監修] 佐藤 保 (森林研究・整備機構 森林総合研究所企画部国際戦略科科长)
- 4 **照葉樹林とは** 未来へ残すために知っておきたいこと
佐藤 保 (森林研究・整備機構 森林総合研究所企画部国際戦略科科长)
- 6 **綾の照葉樹林** 森林と結びつく人々の暮らしと文化
河野 円樹 (綾町役場ユネスコエコパーク推進室係長)
- 9 **鎮守の森** 社寺林としての照葉樹林
石田 弘明 (兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授/兵庫県立人と自然の博物館副館長)
- 12 **台風が多い環境条件で成立する照葉樹林**
齊藤 哲 (森林研究・整備機構 森林総合研究所企画部研究評価科科长)
- 15 **照葉樹の木材利用** 森とつながる人々の暮らし
山下 直子 (森林研究・整備機構 森林総合研究所関西支所森林生態研究グループ長)
- 18 サイエンス・インタビュー 科学のいま、そして未来
折り曲げて貼れる画期的な
「ペロプスカイト太陽電池」の開発をリード!
宮坂 力 (桐蔭横浜大学医用工学部臨床工学科特任教授/東京大学先端科学技術研究センターフェロー)
- 22 チャレンジ!! 科学冒険隊
#93 歯車を使ったおもちゃを作ろう!
小林 義行 (茨城県立土浦第三高等学校講師) 監修
- 26 生き物たちの不思議な関係 第4回
藻類の葉緑体を盗んで光合成!
ウミウシの1種 チドリミドリガイ
前田 太郎 (慶應義塾大学先端生命科学研究所特任助教)
- 30 かはくレポート
「黒潮に注目した地史・生物史・人類史」
巨大海流「黒潮」の役割を理解する
篠原 真人 (国立科学博物館動物研究部脊椎動物研究グループ研究主幹)
- 34 次号予告/定期購読のお知らせ/編集後記



神社に残るタブノキの大木 (滋賀県日野町福寿社) 画像提供: 山下直子



表紙写真

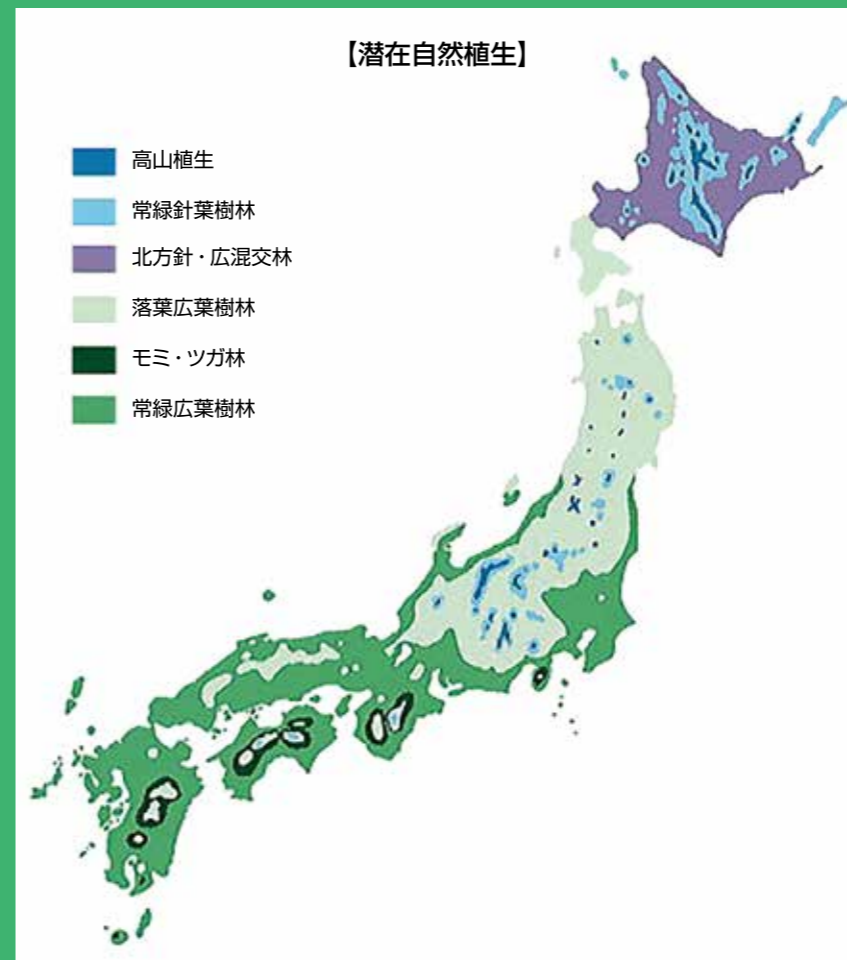
照葉樹林はブナ科、クスノキ科などの常緑広葉樹を主体とした森林で、日本では関東から北陸以南の低地に広く分布しています。森林に広がる常緑樹の厚くて光沢のある葉からこの名がつけられました。写真上は、成熟した照葉樹林で20m以上にまで育つ常緑広葉樹のイスノキ(マンサク科)の高木。写真左下は、上空から見た照葉樹林。ブロッコリーのようなもこもことした樹冠が並びます。写真右下は、常緑広葉樹のタブノキ(クスノキ科)。葉は硬くつやがあり、夏に実をつけます。画像提供: 齊藤哲(上)、宮崎県観光協会(左下)、PIXTA(右下)

特集 照葉樹林

～失われゆく日本の原風景～

[全体監修] 佐藤 保 (森林研究・整備機構 森林総合研究所企画部国際戦略科科长)

Q: 照葉樹ってどんな木? 照葉樹林ってどこにあるの?



◀▶日本の潜在自然植生(左)と現存する主な照葉樹林(右)
「潜在自然植生」は、人間がまったく手を加えず、その土地の気候や風土に応じて育つその土地本来の植物を示す。かつて日本の照葉樹林の面積は、国土の30～40%を占めていたと考えられているが、現在では1%にも満たないといわれている。(南西諸島にも常緑広葉樹林は存在するが、本図では亜熱帯域を含んでいない)
画像提供: 東北大学植物園、吉岡邦二(1973)を基に作成(左)
資料提供: 河野耕三(右)

A: 冬になっても落葉しない常緑広葉樹は、葉の表面のクチクラ層(ワックス状の層)が発達し、つやつやとした光沢があることから照葉樹とよばれます。こうした木々に覆われた常緑広葉樹林が照葉樹林です。日本ではシイ・カシ類などブナ科をはじめ、クスノキ科、マンサク科、モチノキ科などの樹木が混生して森林を形成します。かつては西南日本を中心に広く分布していましたが、やがてその多くがスギ・ヒノキなどの人工林に姿を変えました。また照葉樹林は一度伐採すると落葉広葉樹の混交林に移りやすいこともあり、開発などによってさらにその数を減らしていきました。現在、温帯のまとまった照葉樹林は南九州を中心に四国の一部、紀伊半島の一部などに点在するばかりです。



画像提供: 宮崎県観光協会